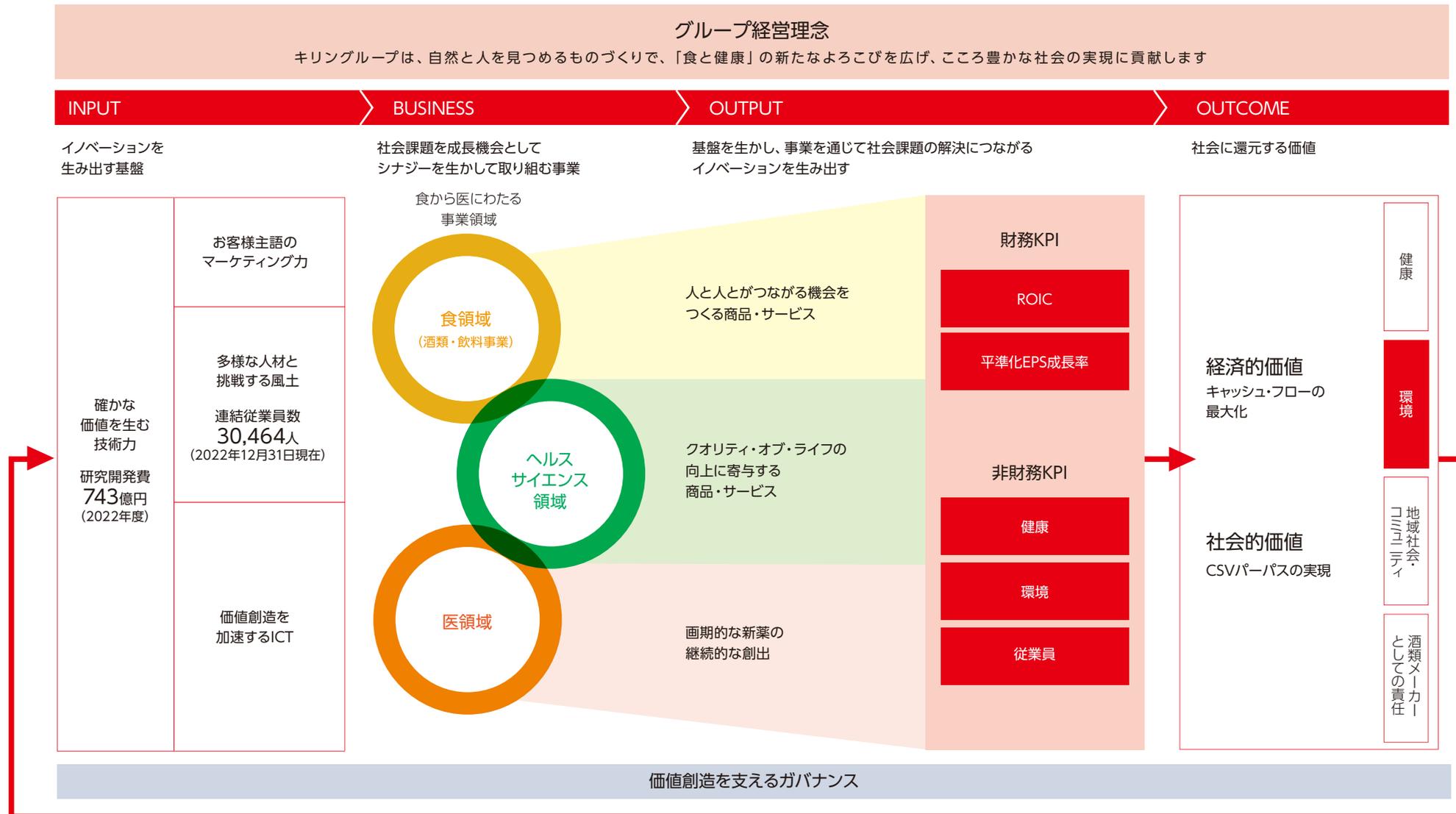


# キリングroupの価値創造モデル

キリングroupはCSVを経営の根幹に据えています。展開する事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、社会的価値を生み出すと同時に経済的価値を創出することで、社会と共に持続的な成長を実現していきます。得られた経済的価値を組織能力に再投資する循環によって、2つの価値創造を増幅させる持続的な仕組みが、

下記の「価値創造モデル」です。食から医にわたる3領域を通じた事業の展開には自然資本のインプットや容器包装・気候変動などの環境の課題解決が必要であり、事業を通じてこれらの解決や自然資本の持続可能な利用を実現していくことが社会に還元する価値につながっています。下記に示す

価値創造モデルで非財務目標の1つとして示されている「環境」は、価値創造のための重要な要素です。キリングroupの価値創造に、どのように環境課題が関連してくるかは、(→P.11)の「キリンの環境価値相関」で説明しています。



# マテリアリティの特定

キリングroupが2022年に発表した長期経営構想「キリングroup・ビジョン2027」の実現に向けた第2ステージとなる「キリングgroup 2022年-2024年中期経営計画」を策定するにあたって、サステナビリティ課題の重要性評価を行っています。「マテリアリティ特定のフロー」(下図)に従い、社会環境分析を更新し、社内外のステークホルダーとの対話や、複数回にわたるグループCSV委員会をはじめとする経営層での議論と取締役会での審議を経て、10年先を見据えた「持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス)」(右下図)を更新しました。

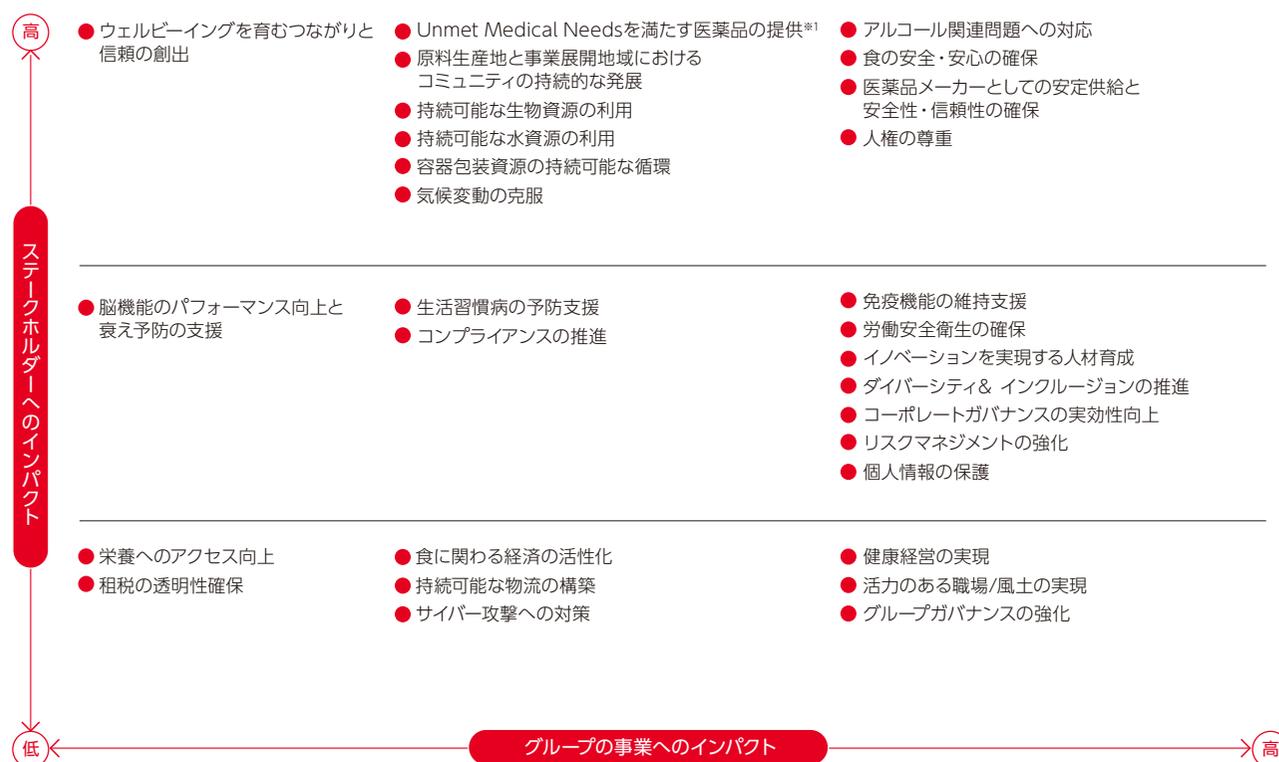
私たちはこの過程で、キリングgroupとそのステークホルダーにとって最も重要な課題を特定し、キリングgroupがどの領域にプラスの影響を与えることができるかを検討しています。この結果、環境関連では、キリングgroup環境ビジョン2050において重要課題と設定されている「持続可能な生物資源の利用」「持続可能な水資源の利用」「容器包装の持続可能な循環」「気候変動の克服」の4つを、グループ経営にとってもマテリアリティの高い経営課題として再確認しました。2022年3月に公開されたTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)フレームワークβ版では、気

候関連課題と自然関連課題に対して統合的にアプローチすることが推奨されています。統合的なアプローチは、「生物資源」「水資源」「容器包装」「気候変動」の4つの環境課題を、独立したものではなく「相互に関連する環境課題」と明記して取り組んだ2013年の「キリングgroup長期環境ビジョン」の基本思想であり、キリングgroupが1990年初頭に地球全体を視野に入れた環境活動に舵を切って以来、継続的に志向してきた考え方そのものです。統合的なアプローチのリーディング企業として、世界におけるこの思想の浸透と環境課題の解決に貢献していきたいと考えています。

## マテリアリティ特定のフロー



## 持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス)(2022年更新)



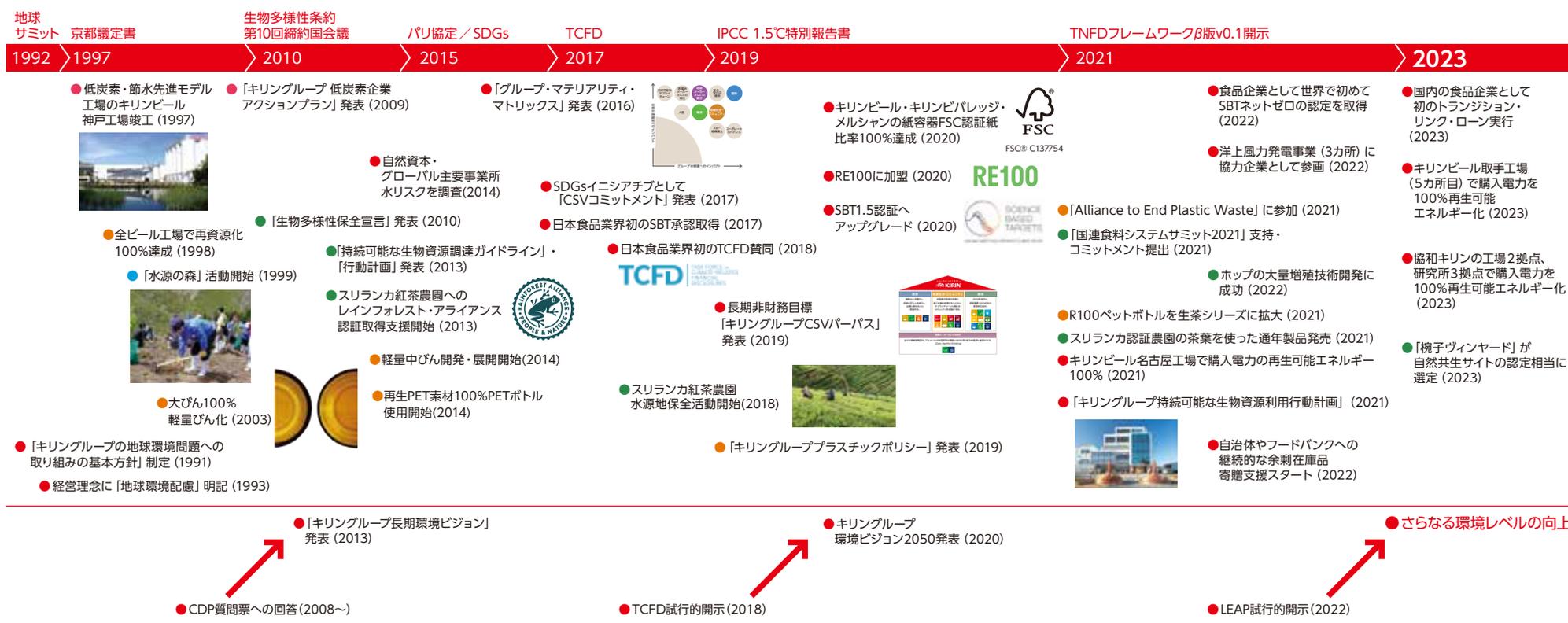
\*1 希少疾患を含む有効な治療法のない疾患に対する医薬品の提供

# 世界の動きとキリンのアクション

キリングroupは、世界の動きを先取りし、試行的に取り組むことを繰り返しながら環境経営のレベルを向上させてきました。1992年のリオデジャネイロの地球環境サミットを契機として、前年の1991年に「キリングroupの地球環境問題への取り組みの基本方針」を制定。サミット翌年の1993年には「地球環境に配慮する企業グループをめざす」と経営理念を改定するなど、環境経営を公害対策中心の活動から地球全体を視野に入れた活動に大きく転換しました。その後の京都で開催された1997年気候変動枠組条約第3回締約国会議での企業発表、1999年に開始した「水源の森活動」、2003年のリターンブルビールびんの国内最軽量化、2020年の紙容器のFSC認証紙100%などは、全て業界初です。キリングroupの環境経営レベルを、さらに大きく引き上げたのは、先進的な開示フレームワークへの対応でした。

2008年頃からは、現在では気候変動問題をはじめとした環境問題への対応に最も大きな影響力を持つ非政府組織（NGO）であるCDPの質問書に本格的に対応を開始。当時はまだ日本でESGがこれほど重要な課題になるとは考えられていない中、質問書に回答することがグローバルで必要とされる環境課題を優先的に把握する有効な方法であると考えてのことでした。CDP質問書への適切な回答のための「頭の体操」が、グローバルな環境課題に対する重層的な理解と2013年に開示した「キリングgroup長期環境ビジョン」につながっています。2017年に公開されたTCFDガイダンスで求められたシナリオ分析へのいち早い対応により、「生物資源」「水資源」「容器包装」「気候変動」というキリングgroupの環境テーマを別々の課題としてではなく、相互に関連する課題として統合的にアプローチしなければならない

という再認識が、経営層から従業員まで広がりました。この理解の共有は、その後の環境経営のレベルアップの基盤となりました。このように、先進的な開示フレームワークへの対応が環境経営レベルを向上させるという共通認識が社内にてできていたことで、2021年に開示されたTNFDフレームワークβ版v0.1で提唱されたLEAPアプローチに対する2022年の試行的開示に世界に先だって挑戦するハードルを低くできました。試行的な開示にいち早くトライすることはリスクもありますが、多くのフィードバックの獲得につながり、環境課題の重層的な理解と、ビジョンの明確化、環境経営の前進につながると考えています。今後も、世界的な環境課題に対して一歩先を行く挑戦を続けることで、脱炭素社会、ネイチャー・ポジティブ、循環型社会の構築をリードしていきます。



# キリングroup環境ビジョン2050

## ポジティブインパクトで、豊かな地球を

気候危機、生物多様性の喪失の進行、プラスチックによる海洋汚染など地球規模の環境問題の深刻化を背景に、社会は大きな転換点を迎えています。キリングroupのように水や農産物など自然の恵みに依存する産業は気候変動の影響を受けやすく、この課題の克服にいち早く着手する必要があります。

キリングgroupが2017年から行っているTCFD最終報告書に基づくシナリオ分析で、気候変動がもたらす農産物や水資源への影響の甚大さを把握し、自然資本への影響を抑えて持続可能な地球を

次世代に渡すには、ネガティブインパクトを最小化し、ニュートラル化するだけでは足りないことが明らかとなりました。また、企業の環境施策も、自社で完結するものから、社会全体へポジティブな影響を与えられるものへと進化することが期待されてきています。

このような社会の要請に応えるために、今までの環境に関する統合的 (holistic) な考え方をさらに発展させたのが、2020年に取締役会で審議・決議し、刷新した「キリングgroup環境ビジョン2050」と、新たに加えた「ポジティブインパクト」アプローチです。

再生可能エネルギー電源については、世の中に追加し増やしていくことで社会の脱炭素化に貢献する「追加性」を重視しています。自らケミカルリサイクルの商業化技術開発に取り組むことで、「プラスチックが循環し続ける社会」の構築を目指します。自然資本については、事業の拡大が生態系の回復につながる「ネイチャー・ポジティブ」を目指します。

私たちはこの新しいビジョンの下、これからを担う若者と共に、こころ豊かな地球を次世代につなげていきます。

### キリングgroup環境ビジョン2050

## ポジティブインパクトで、豊かな地球を

一緒に作りみたい2050年の社会

#### 生物資源

持続可能な生物資源を利用している社会

#### 容器包装

容器包装を持続可能に循環している社会

#### 水資源

持続可能な水資源を利用している社会

#### 気候変動

気候変動を克服している社会



お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます

### 実現するための取り組み

 <b>生物資源</b> 持続可能な生物資源を利用している社会	<b>持続可能な原料農産物の育種・展開および調達を行います</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● FSC、RSPO、レインフォレスト・アライアンスなどの認証スキームに合致した原料農産物を選定します</li> <li>● 地球温暖化に適応した原料農産物を育種し、原料生産地に展開します</li> <li>● 製品廃棄の削減や再資源化を推進し、生産活動によって発生するフードウェイストをゼロにします</li> </ul> <b>農園に寄り添い原料生産地を持続可能にします</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レインフォレスト・アライアンスなど持続可能な認証の取得支援を拡大し、生産地における環境課題などを解決します</li> <li>● 持続可能な農業による豊かな生物多様性への貢献を調査・研究し、原料生産地に展開します</li> </ul>
 <b>水資源</b> 持続可能な水資源を利用している社会	<b>原料として使用する水を持続可能な状態にします</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ地点における水使用量の削減を継続します</li> <li>● 日本国内の水源の森活動をさらに推進します</li> </ul> <b>事業拠点の流域特性に応じた水の課題を解決します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーンの強化・効率化により水災害時のリスクを最小化します</li> <li>● 原料生産地で水源地保全活動および水を大切にすることを教育を実施し、バリューチェーンにおける水の課題を解決します</li> </ul>
 <b>容器包装</b> 容器包装を持続可能に循環している社会	<b>持続可能な容器包装を開発し普及します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル材やバイオマスなどを使用した、持続可能な容器包装にします</li> <li>● 新容器・サービスの開発を目指します</li> </ul> <b>容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本国内のリサイクルシステム構築を牽引します</li> <li>● 事業展開地域の資源回収やリサイクルインフラ整備に貢献します</li> </ul>
 <b>気候変動</b> 気候変動を克服している社会	<b>バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量をネットゼロにします</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 早期にRE100を達成するとともに、自社の使用エネルギーを100%再生可能エネルギー起源にします</li> <li>● バリューチェーン全体の炭素排出量をネットゼロにします</li> </ul> <b>脱炭素社会構築に向けリードしていきます</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様をはじめとしたステークホルダーと共に、脱炭素社会に寄与するビジネスモデルを構築します</li> <li>● 気候変動を緩和する研究を助成し、責任ある再生可能エネルギーを社会に広げます</li> </ul>

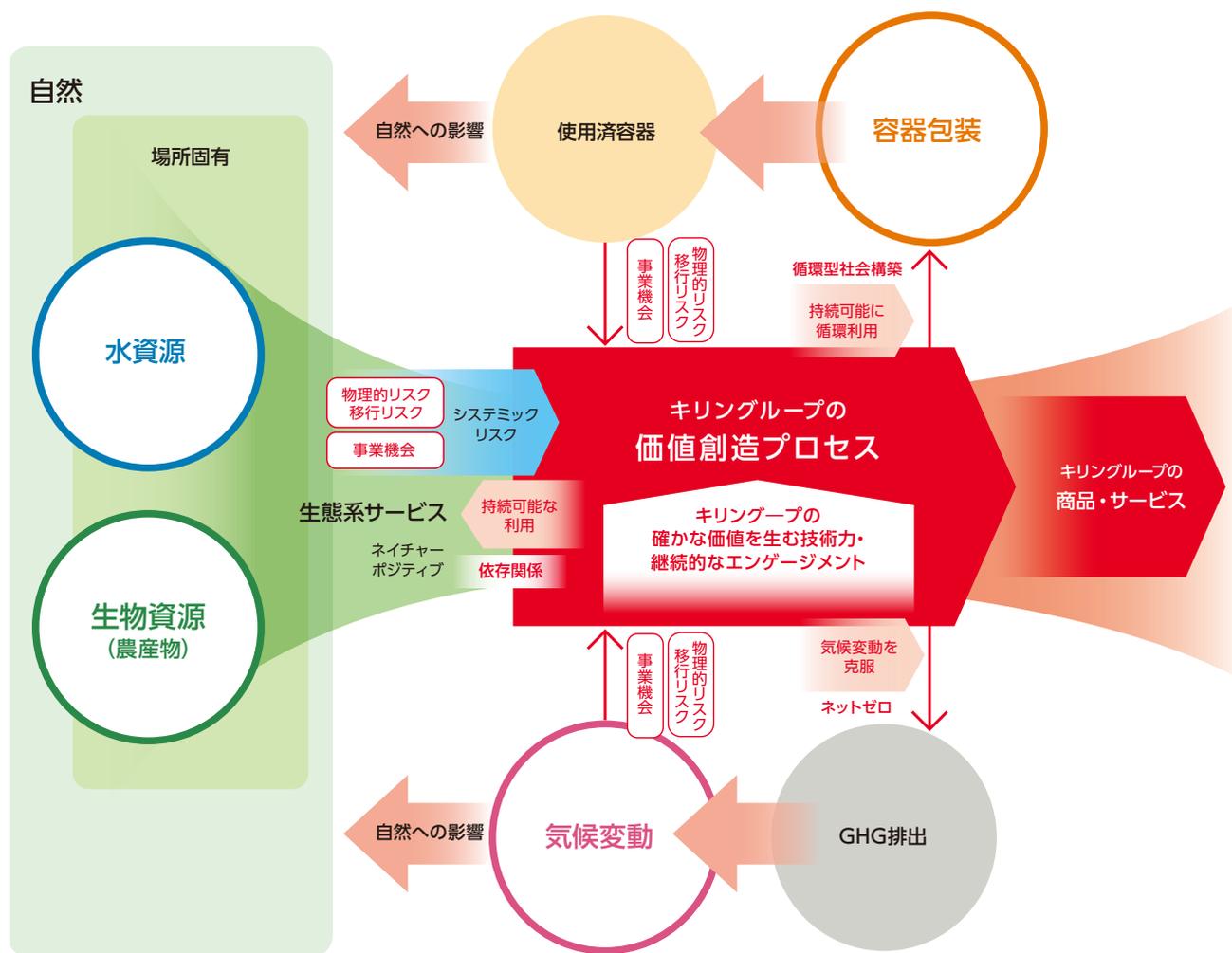
## キリンの環境価値相関

キリングループの環境経営の背景にあるのは、「生への畏敬」というキリンの醸造哲学です。麦芽もホップも水も、ビールの原料は全てが自然の恵みであり、麦汁に含まれる糖をアルコールと炭酸に分解し、ビールの香味を決める酵母も微生物。おいしいビールを製造するには、自然の生命に敬意を払い、生命科学を究める必要がある、という考え方です。

「生への畏敬」は、1952年にノーベル平和賞を受賞されたシュバイツァー博士の思想であり、「われは、生きんとする生命にとりかこまれた、生きんとする生命である」という、人々の多様性や自然環境を尊重する教えです。自社（経済的価値）と同様に周囲（社会的価値）に貢献するという、CSV経営のバックボーンにもなっています。

キリングループが早くから自然資本を価値創造の源泉として捉え、TCFDのシナリオ分析で最初に農産物と水を分析対象に選んだのも、単に生態系サービスを利用する企業であるという認識だけではなく、「生への畏敬」という醸造哲学を経営レベルでも実践してきたからだとも言えます。

生命科学で培われた科学を重んじる組織風土は、パッケージングなど生命科学以外の分野を超えた研究開発力やエンジニアリング技術にも広がり、技術力・研究開発力におけるキリングループの競争優位性につながるとともに、4つの環境課題に統合的にアプローチする基盤となっています。科学的根拠に基づくGHG排出量削減目標としてThe Science Based Targets initiative (SBTI)の認定を業界に先駆けて受けたのも、Science Based Targets Networkが主催するパイロットプログラムに参加して自然資本の科学的な目標設定に貢献しようとしているのも、科学を重んじる組織風土に由来しています。NGOや他企業とのコンソーシアムや地域の方々との協働、さらにはグローバルなイニシアチブへの参画も、統合的アプローチの一環です。



INPUT

OUTCOME

■ 確かな価値を生む技術力

## エンジニアリング力

### キリングループのエンジニアリング

製造プロセス・生産技術・保全技術を熟知したエンジニアが、脱炭素社会をリードするための製造設備を支える。

## 研究開発力

### キリン中央研究所

主なミッションは、ヘルスサイエンス領域の研究開発と事業開拓。健康機能性素材の探索・評価・生産技術の他、高度成分分析技術、原料の栽培・生産技術（植物大量増殖技術）なども保有。

### 飲料未来研究所

ミッションは、飲み物に五感と科学の力を駆使して新たなおいしさや価値を生み出し、人々の生活をより豊かに彩ること。あらゆるジャンルで、健康とおいしさを両立したのみものをつくりだすことに挑戦。

### ヘルスサイエンス研究所

「プラズマ乳酸菌」「ヒトミルクオリゴ糖」「シチコリン」をはじめとするスペシャリティ素材の価値を高め、事業計画を力強く実行するためにヘルスサイエンス事業本部内に2023年に新設。

### パッケージジノベーション研究所

ミッションは、パッケージの変革によるあたらしい価値提供と社会課題の解決。酒類・飲料事業の容器包装関連技術の開発・評価に加えて、「ケミカルリサイクル」技術開発にも挑戦。

## ルールメイキングへの貢献・政策提言

### SBTN (The Science Based Targets Network)

自然資本の目標設定イニシアチブであるSBTs for Natureのコーポレートエンゲージメントプログラム(CEP)に国内医薬品・食品業界として初めて参画。

### TNFD (Taskforce on Nature-related Financial Disclosures)

自然資本に関するリスクについて企業が報告し行動するためのTNFDのパイロットテストに参画。世界に先駆けてLEAPアプローチでの開示を試行。TNFDの要請でTNFDメンバーとのシナリオ分析も実施。

### TCFD (Task force on Climate-related Financial Disclosures)

2018年からTCFD最終報告書に沿った開示を開始。日本の食品業界として初めて賛同を表明。GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「優れたTCFD開示」で最多得票数を2年連続で獲得。

### AEPW(Alliance To End Plastic Waste)

2021年3月から、日本の食品会社として初めて参画。グローバルな視点で世界を取り巻くプラスチック廃棄物問題解決に取り組むことで、参加企業と共に「プラスチックが循環し続ける社会」の実現を目指す。

## さまざまな団体・世代・地域とのコラボレーション

### NGO

レインフォレスト・アライアンスやWWFジャパン、FSCジャパン、アース ウォッチ・ジャパンなどの国際NGOと共にさまざまな環境課題解決を推進。

### コンソーシアム

持続可能な紙利用のためのコンソーシアムやレインフォレスト・アライアンス コンソーシアムなど、他企業やNGOと協力。

### コミュニティ

スリランカ紅茶農園、メルシャンの自社管理畑周辺のある地域など、生産地の人々とエンゲージメントしながら課題を把握し解決方法を検討・実行。

### 次世代

キリン・スクール・チャレンジ、全国ユース環境ネットワークなどとの協働を通じて次世代とエンゲージメントを推進。

■ 継続的なエンゲージメント

■ 統合的な環境課題の解決・キリングループの価値創造

# パフォーマンス・ハイライト (2022年に創出した環境価値)

キリングroupは、2022年にTNFDフレームワークβ版v0.1で提唱されたLEAPアプローチによる試行的開示を世界に先駆けて行いました。23年3月には全世界から選ばれた4社の1社として、TNFDメンバーとともにシナリオ分析手法をテストするなど、自然資本の非財務情報開示では世界をリードしています。またGPIFの国内株式運用機関が選ぶ「優れたTCFD開示」において2年連続で最多得票数を獲得するなど、TCFDに準拠した開示でも継続的に高い評価をいただいています。

3年間を超える新型コロナウイルス感染拡大は、キリングroupの環境課題解決の進捗にも大きな影響を与えました。スリランカでは厳しい外出規制が続き、トレーナーが農園に向くことがほとんどできない状態が続きました。そんな中、唐突に政府から化学肥料や農薬の使用禁止が宣言され、また、その後に続くスリランカの経済破綻により、持続可能な農園認証取得支援や、農園内水源地

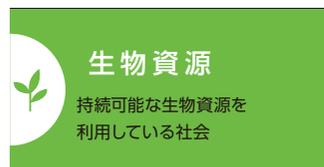
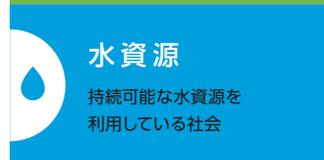
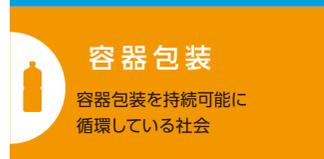
保全活動は長い停滞を余儀なくされました。この困難な状況下でも、キリングgroupは認証取得支援を継続し、農園の茶葉栽培継続のためにレインフォレスト・アライアンスと現地のトレーナーたちは最大限の活動をしてくれました。WHOから新型コロナウイルス感染症の世界的な緊急事態の終了宣言を受けて活動を本格的に再開するとともに、小農園への新たな支援施策をレインフォレスト・アライアンスと協議し、今年中に発表する予定です。

2014年から継続している生態系調査により、長野県上田市のシャトー・メルシャン 梶子ヴィンヤードが、遊休荒地から垣根・草生栽培に移行することで「ネイチャー・ポジティブ」を実現していることを科学的に示し、2022年のCOP15でも成果を発表しました。新たな世界目標である「30by30」\*1のOECMs\*2に貢献するための手続きにも入っています。

容器包装におけるPETボトルへの再生樹脂使用比率は、2022年度

には前年度に比べて約1.7倍となりました。ケミカルリサイクルの実用化計画も進捗しており、2027年50%の目標は十分達成できると考えています。既に日本国内の飲料事業で使用している紙容器はFSC認証紙100%となっており、PETボトルと併せて循環型社会の構築に貢献していきます。

2021年から23年前半にかけて、キリングgroupは工場への大規模太陽光発電の設置や工場での購入電力の再生可能エネルギー100%化施策を加速しています。2023年末までには、キリンビールの使用電力における再生可能エネルギー比率は43%になり、協和キリンではCO<sub>2</sub>排出量が2019年比53%削減となる見込みです。新型コロナウイルス感染拡大からの経済回復によるエネルギー需要の増加、昨年2月からの地政学的な影響によるエネルギー価格高騰というリスクを機会に転換し、脱炭素社会をリードしていきます。

 <p><b>生物資源</b> 持続可能な生物資源を利用している社会</p>	<p>持続可能な原料農産物の育種・展開および調達を行います</p> <p>紙・印刷物 FSC認証紙・古紙使用比率 <b>100%</b>      RSP0認証比率 一次原料 <b>100%</b>      二次原料</p> <p>認証農園茶葉使用製品 ●「キリン 午後の紅茶 ストレートティー」250ml LLスリム (2021年～)</p>	<p>農園に寄り添い原料生産地を持続可能にします</p> <p>スリランカ紅茶大農園 認証取得数 <b>94農園</b>      スリランカ紅茶小農園 トレーニング農園数 <b>9農園</b></p> <p>2013年の支援開始からの累計      2022年～2024年目標 累計5,350農園</p>
 <p><b>水資源</b> 持続可能な水資源を利用している社会</p>	<p>原料として使用する水を持続可能な状態にします</p> <p>非財務目標 用水原単位 (ライオン) <b>3.6kL/kL</b>      グループ 用水原単位 削減率 <b>▲約32%</b></p> <p>2025年目標 2.4kL/kL以下      2018年比2022年実績</p>	<p>事業拠点の流域特性に応じた水の課題を解決します</p> <p>スリランカ 水源地保全 実施数 <b>累計15カ所</b>      国内 水源の森 活動 <b>11カ所</b></p>
 <p><b>容器包装</b> 容器包装を持続可能に循環している社会</p>	<p>持続可能な容器包装を開発し普及します</p> <p>PETボトル 再生樹脂 使用比率 <b>8.3%</b>      紙容器 FSC認証紙 使用比率 (国内) <b>100%</b></p> <p>2027年目標 50%</p>	<p>容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します</p> <p>使用済み PETボトル 回収システム ●東武鉄道・愛知県清須市・千葉薬品「ヤックドラッグ」での「ボトルtoボトル」水平リサイクル実験開始 ●自動販売機横に異物混入削減業界統一仕様の新機能リサイクルボックス導入開始</p>
 <p><b>気候変動</b> 気候変動を克服している社会</p>	<p>バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量をネットゼロにします</p> <p>2019年比 Scope1+ Scope2 <b>▲18%</b>      2019年比 Scope3 <b>▲1%</b></p> <p>2030年目標▲50%      2030年目標▲30%</p>	<p>脱炭素社会構築に向けリードしていきます</p> <p>脱炭素 対応商品 ●Steinlager (Toituプログラム認証カーボン・ゼロ・ビール) ●XXXX Zero (Climate Active認証カーボン・ゼロ・ビール)</p>

\*1 2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。2022年12月に開催された生物多様性条約締約国会議 (COP15) で新たな世界目標として採択。  
 \*2 Other Effective Area-based Conservation Measures (その他の効果的な地域をベースとする手段) の頭文字をとったもので、国立公園などの保護地区ではない地域のうち、生物多様性を効果的にかつ長期的に保全しうる地域。30by30目標の数値目標達成に含むことができる。  
 \*3 それぞれのパフォーマンスデータの集計範囲などについては、進捗状況 (2022年) (P.4)、活動内容 (P.41~P.75) および、「ESG Data Book」をご覧ください。 ESG Data Book <https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/esgdatabook2023.pdf>

# 進捗状況(2022年)

テーマ	一緒に作りたい2050年の社会	大項目	小項目	目標	2020年	2021年	2022年
 <b>生物資源</b>	持続可能な生物資源を利用している社会	スリランカ紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得支援	認証取得支援大農園数(トレーニング農園数) <b>KBC</b>	累計15農園(2022~2024年)	—	—	累計4農園
			認証取得支援小農園数(トレーニング農園数) <b>KBC</b>	累計5,350農園(2022年~2024年)	—	—	累計9農園
		その他	事務用紙へのFSC認証紙または古紙の使用 <b>KB KBC ME</b>	100% (2020年)	100%	100%	100%
			持続可能なパーム油への対応 ※パーム核油除く <b>KB KBC ME KIW</b>	100% (2020年)	100%	100%	100%
			フードウェイストの削減(15年比) <b>KB KBC ME</b>	-75% (2025年)	-44%	-81%	-92%
 <b>水資源</b>	持続可能な水資源を利用している社会	用水削減	用水原単位削減 <b>LN</b>	2.4kL/kL (2025年)	3.6kL/kL	3.5kL/kL	3.6kL/kL
			用水使用量削減率(19年比) <b>KKC</b>	-40% (2030年)	-22%	-25%	-33%
			用水使用量削減率(15年比) <b>KHB</b>	-32% (2030年)	-43%	-52%	-52%
		スリランカ紅茶農園の水源地保全	水源地保全数 <b>KBC</b>	5カ所(2020年)	累計5カ所	累計12カ所	累計15カ所
 <b>容器包装</b>	容器包装を持続可能に循環している社会	PETボトル	PETボトル用樹脂のリサイクル樹脂の使用率 <b>KB KBC ME</b>	50% (2027年)	1.4%	4.9%	8.3%
			6缶パックへのFSC認証紙の使用 <b>KH KB KBC ME</b>	100% (2020年)	100%	100%	100%
		紙容器	ギフト箱へのFSC認証紙の使用 <b>KH KB KBC ME</b>	100% (2020年)	100%	100%	100%
			紙パックへのFSC認証紙の使用 <b>KH KB KBC ME</b>	100% (2020年)	100%	100%	100%
			製品用段ボールへのFSC認証紙の使用 <b>KH KB KBC ME</b>	100% (2020年)	100%	100%	100%
 <b>気候変動</b>	気候変動を克服している社会	GHG削減	バリューチェーン全体のGHG排出量 <b>KG</b>	ネットゼロ(2050年)	4,721千t CO <sub>2e</sub>	4,491千t CO <sub>2e</sub>	4,876千t CO <sub>2e</sub>
			GHG削減率: Scope1と2の合計(19年比) <b>KG</b>	-50% (2030年)	-10%	-14%	-18%
			GHG削減率: Scope3(19年比) <b>KG</b>	-30% (2030年)	-7%	-11%	-1%
		再生可能エネルギー	使用電力の再生可能エネルギー比率 <b>KG</b>	100% (2040年)	12%	17%	27%

**KG** キリングループ **KH** キリンホールディングス **KB** キリンビール **KBC** キリンビバレッジ **ME** メルシャン **KKC** 協和キリン **KHB** 協和発酵バイオ **LN** ライオン **KIW** 小岩井乳業

# 外部評価

キリングroupは、投資家をはじめとしたステークホルダーに対して、透明性のある情報開示を実施しています。その結果として、下記のようなグローバルなインデックスへの組み入れや評価をいただいています。

CDP気候変動Aリスト  
(4年連続)



CDP水セキュリティAリスト  
(7年連続)

ESGファイナンス・アワード・  
ジャパン「環境サステナブル  
企業部門」  
第1回～第2回「金賞」  
第4回「特別賞」  
※2年連続受賞のため2021年度は辞退



PETボトルの新規薄膜形成技術  
ワールドスター賞・木下賞



「キリン 生茶デカフェ」  
ワールドスター賞



ビール軽量中びん  
ワールドスター賞



第26回地球環境大賞  
フジサンケイグループ賞



CDPサプライヤー・  
エンゲージメント・  
リーダー  
(5年連続)



第4回日経SDGs経  
営大賞「SDGs戦略・  
経済価値賞」  
(最高位は4年連続)



キリン・スクール・チャレンジ  
「第8回キャリア教育アワード」  
奨励賞



キリン・スクール・チャレンジ  
平成29年度「青少年の体験活動  
推進企業表彰」  
審査委員会奨励賞



第6回いきものにぎわい  
企業活動コンテスト  
審査委員特別賞



横浜工場  
緑の都市賞・みどりの社会貢献賞



第24回環境コミュニケーション  
大賞  
「キリングroup環境報告書  
2020」が「気候変動報告大賞  
(環境大臣賞)」



軽量ペットボトル開発  
「第46回木下賞包装技術賞」  
受賞



平成29年度グリーン物流パートナー  
優良事業者表彰  
国土交通大臣表彰



第18回物流大賞  
物流環境大賞



WWFジャパン  
企業の温暖化対策ランキング  
「食品業種」第1位



WWFジャパン ビジネスと  
生物多様性勝手にアワード  
最高賞「百獣の王賞」



※1 商品写真は受賞時のものです

## 主な評価・インデックス



2023 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE Blossom  
Japan Index



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

